

事務事業評価

平成 29 年度

担当課 スポーツ課

基本事項	事務事業名	ジュニアスポーツ振興事業				整理番号	2415
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	10 款 5 項 2 目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規	
		節	第6節 スポーツの充実	事業区分	助成・育成		

事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	トップレベルの選手たちのプレーを間近で観たり、指導を受けたり、経験や考え方等の話を聞いたりすることは、子供達に夢や感動を与えるとともに、スポーツに対する関心や意識を高め、自らの目標を明確にする手助けとなる。子供達がトップレベルのスポーツに触れる機会を確保することで、将来のスポーツへの夢を育み、ジュニアスポーツのさらなる充実につなげる。				計画期間	始期	平成	27	年度から
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	小・中学生を大学に派遣しトップレベルの指導者や選手から講義や実技指導を受けることにより、児童生徒の意識の高揚を図り、さらなるスポーツの振興や競技力の向上を図る。				終期	平成		年度まで	
	目的達成のための 具体的手段・方法	日本体育大学との「体育・スポーツ振興に関する協定」を活用し、子供達を日体体育大学へ派遣する。大学の指導者や大学生からの実技指導、各種講義等を受講させる。								
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	27 年度	28 年度	29 年度			
		①実際に参加した児童・生徒の学習したことや、感じたことなどを今後の生活等に活かし、周囲の人にも還元してもらうため報告会を実施する。	目標		1	1	1			
実績				1	1	1				
達成率	%		100.0	100.0	100.0					
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①報告会にて児童・生徒に感想文や1分間スピーチを行う	目標		1	1	1				
		実績		1	1	1				
		目標								
	②	実績								

事業費等の推移	年度		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
	① 直接事業費(千円)				1,470	1,384	1,184	
	財源内訳	国 県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他			250	220	0	
		一 般 財 源	0	0	1,220	1,164	1,184	0
	② 従事職員給与費 b1 × b2		0	0	2,008	2,021	1,887	0
	従事職員数(人) b1		0.00	0.00	0.27	0.27	0.25	0.00
	職員平均人件費 b2		7,213	7,317	7,438	7,484	7,546	
事業費合計 ① + ②		0	0	3,478	3,405	3,071	0	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている	判定
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 応募申込みの内容や、参加させる保護者についても継続を希望される声が多い。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 オリンピックや大学生との交流状況、夢を育む世代としても小学5年～中学2年の対象は適切と考える。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 参加した児童生徒が各々の将来に向けしっかりとしたビジョンを描き、堂々と発表できた。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 事業開始してまだ3年目であり、継続して続けていくにはカリキュラムや行程等も今後工夫する必要があると考える。また、応募する小中学校についても偏りがある。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 事業実施後、各種スポーツ大会等での活躍や学校でもリーダー性が向上したと聞く。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 児童・生徒に夢を育ませるには、直にトップアスリートやその環境に触れてもらうことが最良の手法と考える。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 根本にはスポーツ振興の概念があるため改善の必要はない。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 参加者全員が過不足なく学習・体験できている。また、1万円の自己負担については、実経費と比較しかなり参加しやすい料金となっているため不満の声はあがっていない。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	

判定評点平均（3点満点）	2.89
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算	

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施（特段の見直しは行わない）	判断理由 事業開始してまだ3年目でもあり、事業の評判が広まり始め、参加したい児童生徒や参加させたい保護者が増え始めている。
	<input type="radio"/> B 改善・見直しを行う	
	<input type="radio"/> B1 事業規模の拡充	
	<input type="radio"/> B2 事業規模の縮小	
	<input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し	
	<input type="radio"/> B4 その他の見直し	
	<input type="radio"/> C 休止（隔年実施などへの変更）	
	<input type="radio"/> D 廃止（終期の設定等を含む）	

今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等)
-------------------	-----------

・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。
 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 → その他の見直し
備考	貴重な体験ができるプログラム内容については評価できるが、なんらかの指標を用いて効果検証を行う必要がある。また、事業目的を達成するために他の方法を模索したり、他事業との統合を検討する余地がある。

【3次評価】

総合判定	A 継続実施（特段の見直しは行わない）
備考	より多くの子ども達が参加できるように随時検討してもらいたい。

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 221 (千円)